

早期教育に対する肯定感
1230505 経済マネジメント学群 野田純平
指導教員 小谷浩示

研究背景

少子化が進み、子供一人一人に対する親の期待と投資意欲が高まる中、早期教育が注目を浴びている。果たして、早期教育はどれだけ長期的に有益、若しくは、肯定的に捉えられているのだろうか。早期教育における研究は様々な点で評価、実証研究などが行われている。しかし、日本において早期教育の肯定感に関する研究は未だほとんど行われていない。

研究目的

本研究は、「早期教育の経験や、その種類、そして年齢に応じて、早期教育に対する肯定感が、どのように変化するのか」について実証分析し明らかにする。

研究方法

徳島県のある保育園の保育士と保護者に協力を得て、彼らを被験者とし、アンケート質問票調査を行った。被験者の早期教育への肯定感に着目し、収集したデータから統計分析を行う。

分析結果

分析の結果、早期教育を受けたか否か、自身の受けた早期教育の種類、そして年齢に関係なく、大人たちは早期教育に対して一様な肯定感を示すに留まることが分かった。

考察・結論

仮説の確認と Research Question の解答をした上で、本研究の反省点と今後の展望を論じた。